

とある地域での災害伝承の活動

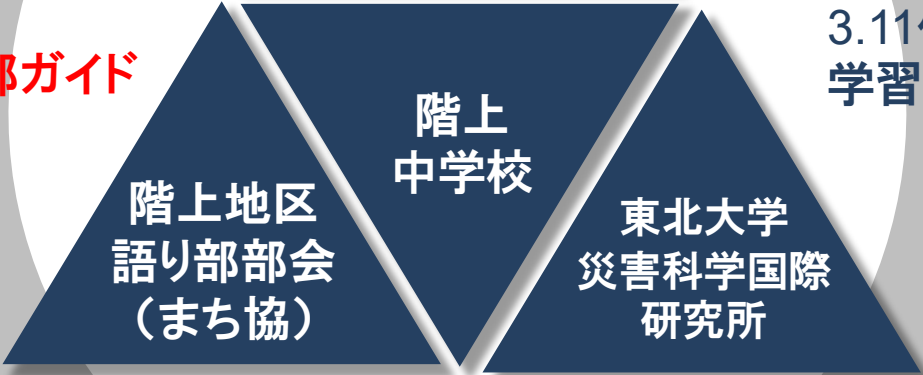


中学生による
伝承館での語り部ガイド

気仙沼市
東日本大震災
遺構・伝承館



3.11体験の聞き取り+
学習にもとづく探求学習



地域住民からの
3.11体験の聞き取り

東北大学
災害科学国際
研究所

語り部勉強会



語り部活動 これからも

気仙沼市波路上瀬向の市東日本大震災遺構・伝承館で13日、語り部として活動する中高生や地域住民が、震災10年と伝承館の開館2年を振り返るフォーラムを開催した。

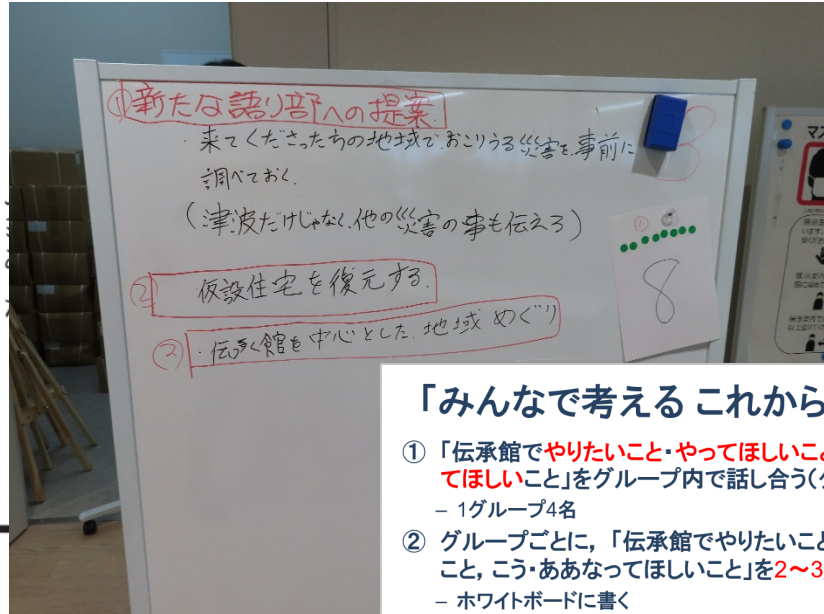
地域住民ら約25人が集まった。東北大災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授（災害伝承学）がコーディネーターを務め、7人の語り部がこれまでの活動を通じての思いや課題を述べた。

気仙沼向洋高で昨年7月に発足した「向洋語り部クラブ」の初代リーダー・熊谷樹さん（18）は、遺構で活動中に若い来館者から「これを見て誰が得するの?」と言われた。熊谷さんは「国内に在る限り、誰もが災害で被災する可能性がある。防災を伝える必要性をより強

東日本大震災
10年



伝承館の在り方について語り合ったワークショップ



く感じた」と力を込

「みんなで考える これからの伝承館」

- ① 「伝承館でやりたいこと・やってほしいこと、こう・ああなっ
てほしいこと」をグループ内で話し合う(グループ)
- 1グループ4名
- ② グループごとに、「伝承館でやりたいこと・やってほしい
こと、こう・ああなっしてほしいこと」を2~3つに整理する
- ホワイトボードに書く
- ③ 「伝承館でやりたいこと・やってほしいこと、こう・ああなっ
てほしいこと」を発表する
- ホワイトボードを前にもって行って
- ④ 参考までに投票してみる
- どれがいいか、を会場全体で考える
- ⑤ まとめ

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館
Ruins of the Great East Japan Earthquake Kesennuma City Memorial Museum

東日本大震災遺構・伝承館
3.11メモリアルイベント/特別フォーラム
「震災から10年と開館から2年を振り返る・活かす」

バウンダリースパナーの存在



中学生による
伝承館での語り部ガイド



気仙沼市
東日本大震災
遺構伝承館



3.11体験の聞き取り+
学習にもとづく探求学習



階上町
語り部
(まち協)



大学
学国際
研究所

地域住民からの
3.11体験の聞き取り

語り部勉強会



連携：言うは易し

- ネットワーク(連携)
 - 同じ目的があって、共同することで互いにメリット・効果がある複数組織・活動のつながり(発表者の考え)
- 連携の**必須条件**(発表者の考え)
 - ① お互いを知っていること(そもそも知らないことがある)
 - ② 資源を供与してでも、それに見合ったり、上回るメリット・効果があること
 - ③ 双方のメリット・効果があるアイデアを生むこと
- バウンダリースパナーの**役割**
 - 以上の条件を満たすために、「足」でかせぎ、「汗」をかく
- 連携でない「**仲間**」